

日本共産党都議会議員 北多摩第4（清瀬市・東久留米市）選出

こんにちは原のり子です

都政へのご意見・ご要望をお寄せください

2025 年夏 号外

発行：日本共産党東京都議会議員団 新宿区西新宿 2-8-1 TEL 03(5320)7270

原のり子事務所 東京都東久留米市幸町 3-6-3 TEL・FAX 042(476)2544



清瀬市の体験農園で

清瀬市、東久留米市は、農地が残る自然豊かな地域です。私は、東久留米市議時代に農業委員を務め、農家の「農地を守っていききたい」との思いを学び、都議になってからは2期にわたり「農業を続けよう」と思える都の支援こそ必要だ」と取り組んできました。都市農業は地域の宝です。

都市農業振興 都議会で提案

私はこれまで、都議会本会議の質問で農業振興の提案を行い、「農地の減少に歯止めをかけるためには、農業者の生産活動を支えて後世にしっかりと引き継いでいくことが必要」との答弁を小池知事から引き出すことができました。生産緑地の指定期限となる2022年を前に、産業労働局長は「特定生産緑地に移行できるように、地域の農業委員会等と連携して制度の周知の徹底を進めている」とも述べました。

がんばる

清瀬、東久留米の農家

生産緑地としての30年間の指定が解除される

「2022年問題」を前に、どれだけ農地として残せるかが課題となっていました。大手不動産が宅地化を狙う動きもありましたが、9割の農家が今後10年は「特定生産緑地」として維持すると決意されました。

国が、都市農業を残す方向へ法整備を行い、生産緑地の貸借制度によつて、農地を維持できる可能性が広がったことも後押ししましたが、なによりも農家の方々の「農地を守りたい」との思いがあったからこそです。

都議会で私は、「農地を守っていくための貸借制度の充実を」と質問し、都が「充実させます」と答えるように変化。

今年度予算では、清水とし子都議（共産党）の質問で、長期貸借への支援が拡充することが明らかになりました。

野菜で各賞を受賞 酪農・畜産もある

清瀬市・東久留米市は野菜の生産が盛んです。農家の努力で各種の賞を受賞されているほど、工夫と努力を続けておられます。

酪農・畜産を続ける農家もがんばっています。酪農家は清瀬に5軒、畜産農家は東久留米に1軒あります。それぞれブランドとして、「東京牛乳」「東京ビーフ」があります。

「東京ビーフ」を生産する農家は、乳牛を熱心に育ててきたお父さんの畜産を引き継ぎ、「自分のできる形で」と肉牛に切り替えて農業を継続しています。牧場におじゃましてお話をうかがいながら、その姿に心を打たれました。

北多摩民報

日本共産党北多摩北部地区委員会は、原のり子都議の活動と見解を紹介します。
2025 年夏 号外 発行：東村山市美住町 1-2-5 小松きょう子

勉強熱心

熱意に応える都政に

地域の農家のみなさんは勉強熱心で、地域に農業のことを知らせたい、と意欲的に取り組み、と意欲的に取り組まれています。

清瀬では農業委員会のみなさんが中心となり、関係者を集めた勉強会が開かれてきました。都市農業をどうしていくか、農家としての生き方を継承したい、と一生懸命考えておられます。



清瀬市の農業まつりで

都議にも声をかけています。

ただき私も参加しています。この熱意にこたえる都政が求められています。

飼料代・猛暑対策 大きな負担に

小池知事は、「農業者の生産活動を支えて後世にしっかりと引き継ぐことが大事」だと答弁し、担当局長も「貸借制度も充実させる」と表明したのですが、具体化はこれからです。



東久留米市で「東京ビーフ」を生産する牧場

今、物価高騰の影響は

大きく、飼料代の高騰や夏の猛暑は酪農畜産農家にとつて特に大きな負担となっています。

牛は人間以上に暑さに弱く、暑熱ストレスから命を守る対策が欠かせません。清瀬では、牛舎の屋根に白色の石灰を塗って温度を上げない工夫をしていると東京新聞でも紹介されています。こういう工夫は、地域全体で共有されています。

「今こそ支援を」 切実な農家の声

都はこの間、飼料価格高騰に対して全国的にも水準の高い緊急支援を行いました。2022年の1回限りです。当時より状況は悪化しており、「今こそ支援してほしい」との声は切実です。潤沢な財政を持つ都ですから、支援は当然可能です。

農業者の努力に応える 都市農業振興条例を

都が、きめ細かな支援に十分踏み出せていないのは、都市農業の位置づけが弱いからではないでしょうか。都には「農業振興プラン」はありますが、東京都には農地・農業が必要だ、ということとを基本に据えた条例がありません。

体験型農園や学校・福祉施設との連携など、農業者のさまざまな努力にも応え、都市農業振興条例づくりを引き続き働きかけ、すすめていきたいと思っています。

気候変動対策 地域からすすめたい

農地は、多様な役割を果たしています。災害時には食料を確保する上からも重要です。地産地消は輸送距離を短縮させ、温室効果ガス削減につながります。

学校給食を豊かにし、子どもたちの成長にも役立ちます。

東京の水と緑の環境保全は、ヒートアイランド現象の緩和にもつながります。気候危機がいわゆる今、農業がはたしている役割を忘れてはいけません。

若者たちは「この地球で生きていけるのか」と気候変動問題を真剣に考え、抜本的な対策を求めています。

小池知事は、都心の開発には熱心ですが、ビルの上に草木を植える程度の対策ではまったく不十分です。東京の都市農業にこそ、もっと目を向けてほしい。

身近な場所で生産されたものを都民が食べられることをきちんと保障していく。都市農業の発展に、東京都が率先して取り組むことが今こそ必要です。

原のり子プロフィール

都議会議員2期。都議会厚生委員会所属。東京都社会福祉審議会委員。東久留米市議5期18年。1965年、東京生まれ。



LINE



YouTube



blog



X